２０１２　アセンション日記
Ｎｏ．４－１　正人　2012年11月30日

　私が、初めてアセンションという言葉を知ったのは2009年の終わり頃でした。非常に長い周期のフォトンベルトに太陽系が突入し始めているという説と共に、ある医療系の機関誌に書かれていた記事で読んだのでした。
（今、この時期に太陽系全体がこのフォトンベルトの中に入ってしまっていることになります。）
　水瓶座（アクエリアス）の時代と重なる今、そして近未来。それは神の千年王国、弥勒の世の到来なのか、マヤ暦が告げるように人類の暦の終わるときなのでしょうか？

　フォトンベルトの話も忘れかけていた２０１０年から２０１１年にかけて少しづつ、自分の中でものの見方、見え方に変化が現れていることに気がつきました。
　たとえば、見えるもの全てが、特に自然界が懐かしく、愛おしく、美しく輝いて見えるようになりました。朝露に塗れた小さな花に声をかけたくなったり、小鳥のさえずりがとても心地よく心に響いてきたりしていました。

　2011年も終わりに近づいた１０月頃からは、更に大きな変化を感じるようになりました。太陽の光がとても優しくなりました。大地からも、何かが伝わって来るような感覚になることが多くなりました。不思議なことに、それと時を同じくして、太陽の寿命

が近づいているという別の感覚が来るようになりました。

　その頃です。１０才の次男が「お父さん、地球は滅亡するのって本当？　僕死ぬの怖い。」と毎晩のように私の布団に潜り込んでくるようになったのは。
話を聞くと、２０１２年の 12 月でマヤの暦が終わっており、その先が無いのは人類が滅亡するからだ」という話が学校ではやっている様子でした。
　私は、怖がる子供の問いかけに、しっかりとしたビジョンが出来ていなかった自分に気がつき愕然としました。

　地球の将来を思い始めたそんなある日、太陽が膨張して地球を飲み込んでしまう鮮明な映像が浮かんできたのです。

　地球人類の終末論は、私が子供の頃からありました。
２０００年以降、２０世紀末を人類は越えられるかという不安も消え人類の集合意識も、安堵感とともに上昇しているかに思えたのは束の間の錯覚でしか無いことに気がつきました。

　何かをしなくては、寝ていた感覚が目を覚ましたのはそれからです。地球が愛おしくてたまらなくなりました。

　一部では、月や火星に移住する計画が進行していることも耳にするようになりましたが、自分は、絶対に地球を離れないと勝手に心に決め、生まれてから蓄積した知識と感覚を総動員して、情報を漁りました。
　人類は、地球の将来は？　そうして得られた結論が、
地球と人類に残された道が、アセンション！
それしか無い！！　でした。

今まで、自分が感じていた感覚、優しく暖かくなった太陽光線、沸々と沸き立つような地球のエネルギー、日々、強くなっていく愛に包まれるような喜びの感情。

それらは、全て人類をアセンションへといざなう　宇宙からのメッセージだったのです。

自分に出来ることは、なんだろう？

自分を育ててくれた地球や太陽に、恩返しが出来るだろうか？
地球を子供達が安心して夢を追える星に出来るだろうか？

今の私は、不安や恐れは一転して　自分が出来ることを行うことという、当たり前でしかも、とても奥の深い大切な生き方をしようとしています。

そして、それは本当の愛を求めて生きてきた５０余年。
最後の最後にたどり着いた究極の目標でもあります。

戦後の復興期生まれの私の夢は、戦争の無い平和な世界、世界人類が協調し、飢えてなくなる子供の無い世界でした。
科学技術、経済の進歩が人類に幸福をもたらすと信じていた時もありました。

今、はっきりと言えることがあります。

宇宙には、愛しかない！

　私たちの存在理由は、愛であること、愛になること、
愛で在り続けること

なんて、宇宙は精緻に創られているのでしょう。

　こうして今、地球に生命を受けているだけでも奇跡であるのに、
だれもが、自分の持って生まれた　愛に目覚めることで、
参加できる。

　大きな宇宙に護られているから、地球という愛に支えられているから、家族や仲間が共にあるから、愛であろうとする限り、その愛を拡げてゆこうとする意志を持ち続ける限り、誰にでも実現できる。

それが、人類究極のアセンション！